

取組名	日置みすゞ学園を中心とした地域が組織的に連携する防災訓練		
特徴	地震発生を想定、津波災害に対応するため、日置地区全体での小・中・市・消防本部・教育委員会が連携した大規模な避難訓練		
学校名	長門市立日置小学校、神田小学校 日置中学校	期日	平成30年10月2日(火)

### 1 ねらい

地震が発生したことを想定し、日置地区小・中学校3校と長門市の防災部局等の連携強化を図るとともに、児童生徒の防災意識の高揚を図る。

### 2 概要

- 長門市で震度5の地震が発生したため、市は防災対策本部を設置する。
- 市防災危機管理課は、日置支所へ連絡する。
- 各学校で、児童生徒・教職員の身を守る行動を促す。
  - ・机の下に避難指示、火気及び落下物の安全確認をする。
  - ・教職員の誘導で児童生徒をグラウンドへ避難させる。
  - ・避難終了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡する。
  - ・初期消火体験①(消化パネル)
  - ・初期消火体験②(消化チャレンジャー)
  - ・初期消火体験③(水消火器)
- 防災研修会(講話)
  - ・西日本豪雨災害について(長門市消防本部予防課講話)
  - ・みんなで備える防災活動について(長門市防災危機管理課講話)
  - ・防災について(長門市警察署講話)
- 災害安全KYT資料の活用
  - ・家庭での地震発生ワークシートに記入し、今日の活動を振り返る。



### 3 成果と今後の課題等

日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練は、非常に有意義であった。地区2つの小学校、中学校の児童・生徒が地震と津波を想定し、避難した後、支所、消防署、警察、教育委員会と連携し、研修会を行うことで、児童生徒の防災意識と自分の身は自分で守るという意識の高まりを感じることができた。

写真のように、初期消火の大切さを確認する取組も大変有効かつ危機対応力の強化にも役立っていると感じたが、生徒一人ひとりがいざという時に実践できるか、AEDの使用と同様に、活用できるだけの定着を図ることが課題である。

大きな規模での取組となるため、年に1回の合同訓練となるが、学んだことを忘れないような活動を日々の教育活動にも取り入れていきたい。